

《巻頭言》 — 責任の重要性 —

代表取締役社長 中田義秀



去る6月1日、代表取締役社長に就任しました中田義秀です。
社長就任にあたり、社業発展、また職員皆様に更に明るい将来展望が開けるよう誠心誠意努力する所存でいます。

当社は昭和56年4月に「千美産業株式会社」として創業以来、今年で設立35年を迎えました。

嘗々とした社歴の中、先人の英断によりいかなる苦難も乗り越え、現在では21世紀にふさわしい総合ビル管理のほか、より快適で安全な環境づくりの会社として発展してきております。

一方、ビル管理業界に目を向けてみると、過当競争が一段とし烈となり、低入札も横行し、果たして顧客が満足できるサービスが提供できているのか疑問に思うことも多くあります。

ここで、企業責任の重要性について、今一度考えてみたいと思います。

当社では、品質方針として

「明るい挨拶を行い、明るい職場環境を創造する。」

「適切な清掃機器を使用して、クオリティの高い作業を実施する。」

「顧客のニーズに応える良質な企業を目標とする。」

の3つの目標を掲げております。

この目標達成には、企業責任を醸し出す職員個々の責任感が重要なポイントと考えております。

私たちは顧客様から仕事を請負った際、信頼関係をより深く築き、将来的に仕事をさせて頂くことが重要です。このためにも、顧客の望むニーズに十分応えるため、企業責任としてまた従業員個々の職責に応じた責任ある対応が、会社の信頼度を増し、次への仕事につながると確信しています。

敢えてこの責任という言葉に触れましたのは、責任の重さを自覚する企業こそが、先述した過当競争を生き抜いていく真の力を備えることができると思うからです。

私達は、これからもお客様に必要とされる会社を常に目指し、日々の研鑽努力を職員皆様に期待しています。

《新体制のお知らせ》



当社は、平成28年6月1日及び19日付で次のとおり新執行体制になりました。

(平成28年6月1日付)

代表取締役社長 (新任)	中田義秀
代表取締役会長 (留任)	並川壽男
常務取締役 (留任)	松井和夫
取締役部長 (留任)	金井秀文
監査役 (前 代表取締役社長)	井上典子
相談役 (前 常務取締役)	神田陽博
呉営業所 所長	齋藤敦則
東山口営業所所長	本田健一
三次営業所 所長	平田 勇
東広島営業所所長	松平 繁



(平成28年6月19日付)

監査役 (前 相談役)	神田陽博
-------------	------

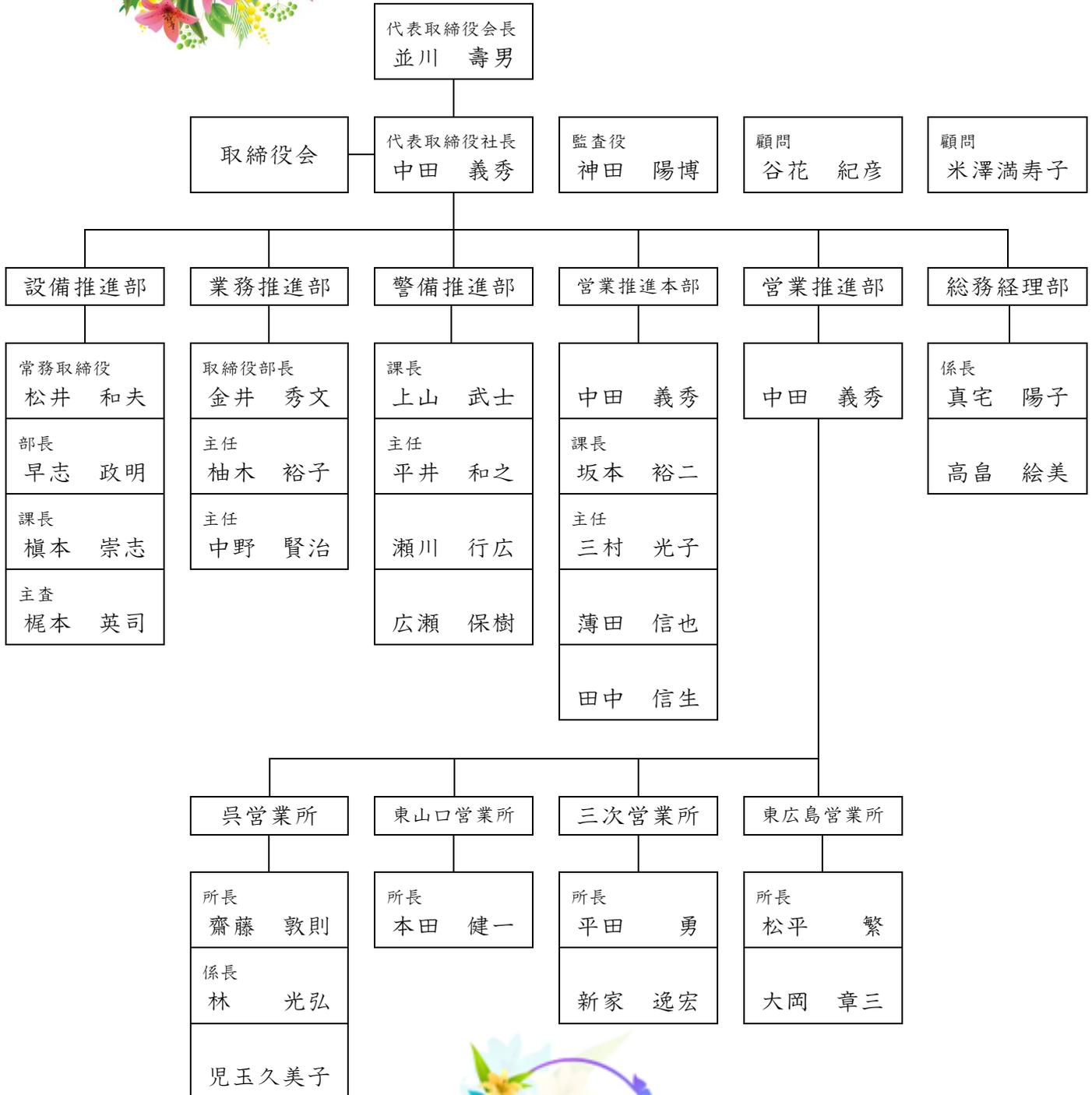
☆ 次のページに組織図を記載していますので参考にしてください。
次号から、順次、各部、各営業所を紹介していく予定です。





株式会社センビ組織図

【平成28年7月1日】



《熱中症対策》



今年の夏も猛暑になりました。

ビルメンテナンス業においては、炎天下での屋外作業や暑い日の休館日の定期清掃作業など、高温、多湿化で行なう作業があります。

ここでは、熱中症対策について紹介しますので、職員皆さんは熱中症にならないよう十分注意してください。

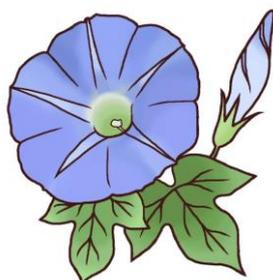
とりわけ、高齢者は若年者と比べて体内の水分量が減少しており、温度の変化やのどの渇きを感じにくくなっているため特に注意が必要です。

紹介した熱中症対策については、一般的な事項です。

当社の職場環境では対応できない場合もありますが、少しでも参考にさせていただき熱中症対策に気を付けてください。

作業環境管理

- ① 屋外作業では、直射日光や地面からの照り返しを遮ること。
- ② 作業を日陰や朝晩の涼しい時間帯にできないか検討すること。
- ③ 屋内作業では、空調、スポットクーラー、扇風機、除湿器等を使用し、快適化を目指すこと。
- ④ 作業場所又はその近隣に冷房を備えた休憩場所を設けること。屋外では、日陰等の涼しい休憩場所を確保すること。
- ⑤ 休憩場所には、身体を適度に冷やすことのできる物品や設備及び水分、塩分を備えること。



作業管理

- ① 高温多湿作業場所での休憩時間をこまめに設けて、連続作業時間を短縮すること。
- ② 身体作業強度が強い作業を避けること。
- ③ 作業初日から1週間は暑さに慣れていないため、計画的に熱への順化期間を設けること。
- ④ 梅雨明け、気温が急に上昇した時、新たな作業を行う場合、長時間作業から離れた後に再度作業を行なう場合においては、特に留意が必要です。
- ⑤ 自覚症状の有無にかかわらず、作業の前後、作業中に定期的な水分及び塩分の摂取を行なうこと。
- ⑥ 作業中に巡視を行ない、水分及び塩分の摂取を徹底させること。
- ⑦ 熱を吸収する服装や保熱しやすい服装は避け、透湿性及び通気性の良い服装を着用すること。



健康管理

- ① 作業従事者が熱中症の発症に影響を与える疾患(糖尿病、高血圧症、心疾患など)がある場合、熱中症になるリスクが高くなるので、医者と相談して適切な対応を取ることが必要です。
- ② 体調不良、朝食未摂取等は熱中症の発症に影響があるので、作業前に健康状態を確認すること。
- ③ 作業中、作業員同士で声をかけ合い、相互の健康様態に留意すること。
- ④ 休憩場所等に体温計や体重計等を備え、必要に応じて体温、体重その他の身体状況を確認すること。



《編集後記》



「きずな」再発行の思い !!

「絆」（きずな）

絆という言葉は、平成23年3月に発生した東日本大震災後において被災された多くの方々への思いをはせて用いられ、日本に限らず全世界的にも言葉の持つ意味を深く理解されております。

そして「絆」は、平成23年、当年の漢字として決定されました。

ところで、「絆（きずな）」という言葉は、当社が以前発行しておりました社内報の題字であったことをご存知の方も多いと思います。

辞書で「絆」を調べてみると、「断ちがたい恩愛」「断ち切りがたい気持ち」「人と人との断ち切りがたい結びつき」とあります。

社内報創刊時、社員お互いの立場を尊重し、そして相手を敬う結びつきの重要性を自覚され、この「きずな」を題字として選ばれた先人の慈恵の深さに感嘆しています。

その社内報の立役者であった元社長の井上典子氏が6月18日に急逝されました。

故人を偲び、ご冥福をお祈りいたします。

井上氏は、在職中は会社の発展に多大なご尽力されました。当社の歴史には無くても語られないといっても過言ではありません。副社長及び社長在任中は卓越した経営手腕で会社の発展に大きく寄与されるとともに、職員の人心には特に尊ばれる方でもありました。

このたび、井上氏のご意思を尊重し、手塩にかけて発行されていた社内報「きずな」を再び発行することといたしました。

構成的には、職員皆様の寄稿を中心としつつ、会社や業界の概要に限らず「ほっと」一息つけるコーナーなど身近な話題も提供させていただく内容で、年間3回から4回程度発行していく計画であります。

次回号からは、各職場の話題を盛り込む予定としています。

積極的な投稿も歓迎しますので、できるだけ多くの話題提供をお願いします。

職員皆様から待ち望んでいただける社内報「きずな」となるよう編集していきたいと考えておりますので、末永くご愛読いただきますようお願いいたします。



《文責 推進部N.T》